

# 2015 年度秋学期 授 業 評 価 報 告

科 目 区 分 名	表象文化学部 共通 科目
-----------	--------------

アンケート結果、今後の改善、その他特記事項（授業方法の工夫等）についての総評

この科目群は、英語英文学科・日本語日本文学科の両学科を統合し、新たな理念のもとに発足した表象文化学部の新機軸であり、また基幹となるべき重要なものである。

その中で数値が高いのは「京都を読む・歩く・見る」や「英語で案内する京都Ⅱ」「舞台系術文化論」「京都の中の外国文化」などである。反対に数値が低いのが「京ことば」「文化と表象B」「英語で読む京都印象記」であった。これについてはその原因を調査して改善につなげたい。

全体として見たところ、1「授業内容が理解できた」が 4.00 (4.16=全学)、2「意欲的に取り組んだ」が 3.98 (4.14=全学)、3「好奇心が刺激された」が 4.04 (4.09=全学)、4「授業時間外の学習時間」が 0.42 (0.70=全学)といずれも全学平均よりやや低く、学生のやる気や理解を十分に引き出せないでいることが分かる。せっかくの基幹科目群が有効に機能していないことになる。

また5「教員の話は聞き取りやすい」が 4.14 (4.18=全学)、6「授業方法の工夫」が 4.01 (4.11=全学)、7「シラバスに合っていた」が 4.09 (4.28=全学)、8「クラス全体が授業に集中できるような教員の配慮」も 3.99 (4.17=全学)とやや低いので、担当教員の適切な配置を含め教員側の一層の努力や工夫が求められる。

表象文化学部開設から丸7年が経過した現在、科目の見直しも含めて総合的な検討をする必要がある。

上記の枠内に収まる範囲内でご記入ください。